

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	6310	学校名	関商工高等学校（定時制）
------	------	-----	--------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制工業高校として 充実した個別支援と、誰一人取り残さないきめ細やかな教育活動を通して 地域と連携して、地域に貢献できる自立した社会人の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上と自ら学び自ら考える力を養い、基礎学力の定着と自己実現を目指す生徒 基本的な生活習慣と、豊かな人間性と社会性を身に付けることを目指す生徒 社会人としての資質を身に付け、卒業後に地域の社会人として貢献できる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しの環境を整え、わかる授業、学ぶ楽しさを実感できる授業を通して、学習意欲の向上と基礎学力の定着を目指す 充実した個別支援を通して、社会人としてのマナーや規範意識を身に付けさせ、基本的な生活習慣の定着を目指す 外部とも連携し自己肯定感を養い、生徒の勤労観・職業観と社会人としての資質の育成を目指す 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 学校が心の居場所と捉え、学校への帰属意識を高めるとともに、学習意欲を高め基礎学力の定着を目指す生徒 卒業後に地域の社会人として貢献するため、勤労観・職業観とコミュニケーション能力を高めようとする生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や一斉授業への不適応に起因する学習習慣と基礎学力の欠如 自己実現へ向けた学習意欲の希薄 社会人としての資質の欠如 工業科の定時制に対する、地域や受検者・保護者からのニーズの変化 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	卒業後の自己実現を見据えた、基礎学力の育成と学習意欲の向上	
	生徒指導	健全な生徒の育成に向けた、基本的な生活習慣と規範意識等の習得	
	進路指導	地域社会人の育成に向けた、社会人としての資質の習得	
	学校経営	学校の将来ビジョンを見据えた、地域や関係機関等との連携	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	・学習レベル・能力に応じた少人数指導、読み書きが得意な生徒への配慮による学習意欲の向上	施策IV-23	授業評価・アンケート 職員連絡会	<ul style="list-style-type: none"> アンケートより、授業関連の項目は生徒・保護者ともAB評価でほぼ100%を占める。 学び直しの機会も十分に設け、中学時よりも授業に対する理解度・満足度も87.5%が良好な結果となっている。 ICTに関しては授業（実習等は除く）での教員の利用率は100%であり、アンケート結果も75%が良好な結果となっている。 1年生より木材加工を取り入れることにより物づくりや工業に対する苦手意識を軽減することはできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で個々に応じたわかりやすい授業を実施することで、授業に対して強い拒否感を示す生徒はいなくなった。また実習内容の見直しにより、積極的に実習に取り組む姿も見られ、成果物も十分なレベルに達した。 授業で生徒がICTを利用する機会も増えてきたが、今後のタブレットの個人負担での購入も見据えて、ICTを使うことで授業の理解や学びを深める体験ができる授業研究をすすめる必要がある。 	B
	・学び直しの機会を積極的に設け、義務教育段階の学習内容の定着を図る	施策IV-23	授業評価・アンケート				
	・ICTを活用した授業展開により、生徒の理解度を高めるとともに、利活用できる力も育成する	施策II-9	授業評価・アンケート				
	・魅力ある教育課程や学校行事等を運営し、常に生徒の出席を促し、学校への帰属意識を高める	施策I-1	アンケート、職員連絡会 家庭との連携				
生徒指導	・多様な生徒と向き合い、基本的な生活習慣を身に付けさせるため全職員共通理解で指導にあたる	施策I-1	各種調査・アンケート 職員連絡会	<ul style="list-style-type: none"> アンケートより、生徒により達成度は異なるものの、基本的な生活習慣の確立についての指導は概ねできている。 いじめや人間関係の問題も含め、生徒は学校が安心安全な場であると実感できていることは、アンケート結果や各種調査でも明確に数値で示されている。 心配な点を早期に家庭に連絡し連携を図るだけでなく、日常の様子を保護者に伝えることで、良好な関係を築くことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に応じた支援をして、生徒を育てていくという教育理念を全職員で共有し実行できた。生徒もよく努力し昨年度よりも成長した自分を実感することができ、保護者ともに満足度も高い結果を得た。 より専門的かつ、実際の指導に役立つスキルを全職員が身につけることで、様々な場面で必要な支援を実現できるようにしたい。そのために定期的な職員研修が必要であり、特別支援学校との積極的な交流が必要である。 	B
	・家庭や地域機関と連携して、悩み相談や問題の未然防止にあたる体制を整備し、常に行う	施策I-7	家庭・地域機関との連携 各種調査、職員連絡会				
	・欠席・遅刻等の減少に向け、全職員で早期対応するとともに、適宜全校生徒への啓発を実施	施策I-1	家庭との連携 出欠統計、職員連絡会				
進路指導	・1年次からのキャリア教育実践により、正しい勤労観・職業観を育成する	施策II-13	授業評価・アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学、外部講師による進路講話、個別の面接指導と書類作成のサポートまで、一通りの必要な指導はもれなく実施しており、アンケート結果も70%が良好な結果となっている。 情報技術検定3級3名受験で3名合格した。その他の検定では結果を出すことはできなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 就職を希望する生徒にあわせた、細やかな指導を行い結果を出すことができた。卒業生が活躍する企業を見学するなど、生徒の進路意識の向上を促すことができた。 卒業と就職をゴールにするのではなく、生徒が社会の中で自分の力を発揮して生きていけるようなキャリア教育を、地域企業との外部連携を柱に進路指導部が主体となって推し進めていく必要がある。 	B
	・外部機関とも連携し、適正な進路実現に繋げるとともに、離職率の減少に向けた資質の育成	施策II-13	外部機関との連携 卒業生の追跡調査				
	・ものづくりの興味・関心の醸成を常に追求し資格取得の向上や、製造業への就職率を上げる	施策II-10	職員連絡会 各種資格取得				
	・欠席・遅刻等の減少が社会人としての重要な資質と捉え、職員共通意識で生徒への指導にあたる	施策I-1	家庭との連携 出欠統計、職員連絡会				
学校経営	・将来の魅力ある学校づくりに向け、地域等のニーズや具現化するための情報収集にあたる	施策IV-20	アンケート、職員連絡会 外部・地域機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 中学校（L教室）を訪問し、中学生の現状と本校への要望を聞き、目指すべき方向性を明確にすることができた。 複数の企業が本校の生徒の在学中からの受け入れに協力していただけることになり、企業見学や体験実習、出前授業の計画を具体的にすすめることができた。 H Pや情報発信関連のアンケート結果は良好な回答が60%を切っている。配布しているパンフレットも大幅な更新がされていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 関市立関商工高等学校定時制課程として、魅力ある学校づくり、地域から応援される学校・生徒を目指すための地域連携のあり方を具体的に示すことができるようになった。 来年度は在学中の就労支援の枠組みを完成させ、実際に運用できるようにする。 中学生や地域の企業の方に本校の魅力が伝わるパンフレット作りとそれと連動したH Pの作成が急務である。 	B
	・学校や地域に愛着を持ち、地域から応援される学校・生徒を目指すため地域連携等を企画する	施策I-4	アンケート、職員連絡会 HPによる情報発信				
	・中学生期の不登校・発達障害等の生徒に対する支援・指導について全職員で研修し実践に繋げる	施策IV-23	中学校・地域との連携 職員連絡会、職員研修				
	・学校行事や各種式典等の重要性を常に促し、欠席・遅刻を減らし地域社会人の基礎を育成する	施策I-1	家庭との連携 出欠統計、職員連絡会				

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月14日

<ul style="list-style-type: none"> ・在学中の就労支援に協力していただける企業への企業見学や出前講座、短期の就労体験（インターンシップ）を計画・実行し、就労に向けての支援制度を確立する。引き続きハローワーク等と協力し、各中学校区に1社の協力企業を目標に協力企業の募集を行う。 ・生徒が将来的に社会の中で活躍していくために今必要なこと、これから必要になることを学ぶことができるキャリア教育を実践する。学び直しだけでなく各教科科目でつけさせたい力を明確にし、それを身につけるためのカリキュラムと指導計画を作成し実践する。その中に資格取得や検定についても組み込み、生徒の学習意欲や自己肯定感の向上につなげていく。 ・生徒に応じた指導の充実のために、全職員を対象とした定期的な職員研修を計画し、特別支援学校との積極的な交流を通じて職員のスキルアップを目指す。 ・関市内の中学生や保護者と企業に本校定時制の魅力が伝わるパンフレットとHPを作成し、中学校訪問や進路説明会、企業訪問、高校見学会を通じて積極的に情報発信を行う。

学校関係者評価 実施日：令和8年1月28日

<ul style="list-style-type: none"> ・前に進んでいく意識や思いを中学生とその保護者に広く伝えていくことが大事である。生徒に対してはスモールステップでの教育実践により、習得だけを目指すのではなく、学ぶことの大切さを体験させてほしい。 ・目標の具現化は大切である。定時制のことをよく知らなかった。広報は大切である。 ・社会に出たときに自分の力を生かせるように、高校時代に力を蓄えることが大切である。生徒の特性を生かしていい関係を築いてほしい。 ・働く上で一番大切なのは安全意識である。高校時代からのものづくりへの関心を高めるカリキュラムと安全意識を高める安全教育を行ってほしい。 ・定時制に通うことの重要性が通信制との差別化につながる。これからの人生の基礎をつくる上で定時制での生活が重要である。 ・志願者の増加につなげるためには、各種コンテンツの充実だけでなく、ターゲット層にどうやって見てもらうかを検討しなければならない。外部委託して魅力あるパンフレットの作成等を検討すべきである。
--